

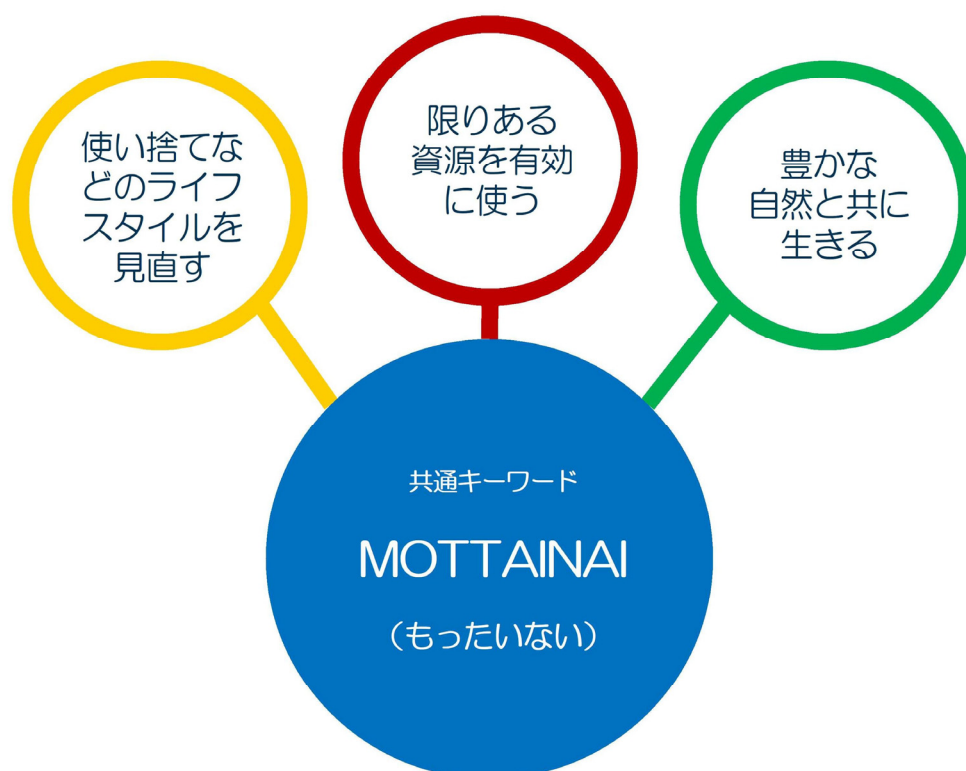
第2章 計画の理念・目標

1 基本理念

「使い捨てなどのライフスタイルを見直す」「限りある資源を有効に使う」「豊かな自然と共に生きる」これが持続可能な社会を目指す上で、本市が大切にしている環境政策の基本理念です。これらを進めるには、私たちのライフスタイルを転換しなければなりません。そこに共通する言葉は、これまで日本人が大切にしてきた「MOTTAINAI※¹」（もったいない）です。

「省エネルギー」と称して、エネルギー効率の高い機器や装置を使っても、使い方の無駄を見直さなければ真の省エネルギーとは言えません。そこで本市は、エネルギーの消費活動自体を見直すという意味で「節エネルギー※²」という言葉を提唱し、温暖化対策の柱にしてきました。

基本理念は、私たちが改めて「もったいない精神」に立ち返り、上記に掲げる考え方を明確にしたものです。



※1 平成 16 年（2004 年）に環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したケニア出身のワンガリ・マータイさんが、環境を守る世界共通語として広めることを提唱した言葉。Reduce（ゴミ削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）という環境活動の 3R と、かけがえない地球資源に対する Respect（尊敬の念）が込められている言葉であり、「MOTTAINAI キャンペーン」として地球環境に負担をかけないライフスタイルを広め、持続可能な循環型社会の構築を目指す活動が展開されている。

※2 「吹田市地球温暖化対策新実行計画 すいたんの CO₂大作戦」（平成 23 年（2011 年）3 月策定）において提唱した言葉。

2 基本方針

地球温暖化をはじめヒートアイランド現象や生物多様性の衰退、深刻なエネルギー不足など様々な環境問題に直面する今、健全で豊かな環境を守り引き継ぎ、持続可能な社会を構築していくためには、基本理念に基づき、市民・事業者・行政がそれぞれの立場での役割を果たすとともに、パートナーシップによる取組を積極的に進めていかなければなりません。そのため、次の考え方を基本方針として、施策や取組を推進していくものとします。

安全で健康かつ快適な生活を営むことのできる良好な環境を確保する

- ・ 大気、水、土壌などの身近な環境の保全に取り組む
- ・ 生物多様性の保全に配慮しつつ、自然との共生を図る
- ・ 快適な都市環境の創造を図る
- ・ 気候変動への対策に取り組む

エネルギーや資源を大切に使い、循環する社会を目指す

- ・ 節エネルギー・省エネルギーを進め、ライフスタイルや事業活動の転換を図る
- ・ ごみの減量・再資源化、節水などの資源の適正な管理及び循環的な利用を図る

市民、事業者、行政の協働で、持続可能な社会づくりを進める

3 望ましい環境像

基本方針に基づき、本計画における望ましい環境像を以下のように掲げます。

みどりと水 光と風 楽しく共生し未来へつなげる 環境先進都市すいた

みどりと水 光と風

生物多様性を保全し、身近な生活を潤してくれる要素（生命の源）であると同時に、太陽光、水力、風力、緑化など自然エネルギーの要素でもあり、地球温暖化対策につながるもの

楽しく共生し 未来へつなげる

健康で心豊かな暮らしを実現させるために、環境にやさしい行動・活動を選択し、自然と楽しく共生し、持続可能な未来につなげる

4 重点戦略と分野別目標

望ましい環境像を実現するため、総合的かつ分野横断的な視点で重点的に取り組む「重点戦略」（はぐくむ、まもる、そなえる）と本市の環境課題の解決に向けた「分野別目標」（エネルギー、資源循環、生活環境、みどり・自然共生、都市環境）を設定します。

吹田市第3次環境基本計画 指標一覧（目標年度| 令和10年度（2028年度））

目 標		達成指標（※1）	活動指標（※2）
重点戦略	はぐくむ 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みをはぐくむ	○ 地域の美化や緑化、環境イベントなどのボランティア活動に参加する市民の割合：21 % ○ 行政、団体、その他企業などと連携した環境活動を実施している事業者の割合：40 %	➢ エコスクール活動簿の評価（教室での取組）が21点以上の学校数 ➢ 環境啓発イベント参加者数 ➢ すいた環境サポーター養成講座修了者数（累計） ➢ アジェンダ21すいたの事業者会員数 ➢ 地域材使用量（累計）
	まもる 良好な環境をまもる	○ 市域の年間エネルギー消費量：13.1 PJ(ペタジュール) ○ 市民1人当たりのごみ排出量（1日）：760 g ○ 生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合：50 %	➢ 市域の太陽光発電システム設備容量（累計） ➢ 食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数（累計） ➢ 生物多様性保全イベント参加者数
	そなえる 気候変動による影響にそなえる	○ 災害に備えている市民の割合：75 % ○ 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合：30 %	➢ 連合自治会単位での自主防災組織の結成率 ➢ 雨水排水施設の整備率 ➢ 透水性舗装面積累計
目 標		達成指標（※1）	活動指標（※2）
分野別目標	エネルギー 再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	◎ 年間エネルギー消費量 市域：13.1 PJ(ペタジュール)（☆） 家庭部門・市民1人当たり：8.2 GJ (ギガジュール) 業務部門・従業員1人当たり：25.6 GJ (ギガジュール) ○ 市域の年間温室効果ガス排出量：1,092 千t-CO₂ ○ 市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量：2.89 t-CO₂ ○ 吹田市役所の事務事業に伴う年間温室効果ガス排出量：24 千t-CO₂	➢ 公共施設における再生可能エネルギー導入件数 ➢ 市域の太陽光発電システム導入件数及び設備容量(累計)（☆）
	資源循環 資源を大切に する社会システム の形成	◎ 市民1人当たりのごみ排出量（1日）：760 g（☆） ◎ リサイクル率：25.6 % ○ ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組に満足している市民の割合：40 % ○ 燃焼ごみの年間搬入量：84,390 t ○ ごみの年間排出量(家庭系ごみ)：76,995 t ○ ごみの年間排出量(事業系ごみ)：27,646 t ○ マイバッグ持参率：80 %	➢ 食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数（累計）（☆）
	生活環境 健康で快適な暮らしを支える環境の保全	◎ 公害に関する苦情を解決した割合：80 % ◎ 「環境美化推進団体」の団体数：40 団体 ○ 環境目標値達成率：100 % （二酸化窒素、一般環境騒音、河川BOD） ○ 快適な生活環境の確保に満足している市民の割合：40 % ○ 熱帯夜日数（5年移動平均値）：29 日以下 ○ 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合：30 %（☆）	➢ 下水処理水の高度処理普及率 ➢ 環境美化推進重点地区数 ➢ 雨水浸透箇所数累計（☆） ➢ 透水性舗装面積累計（☆）
	みどり・自然共生 自然の恵みが 実感できる みどり豊かな 社会の形成	◎ 吹田市域の緑被率：30 %（将来目標） ◎ 「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数：60 団体 ◎ みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合：67 % ○ 生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合：50 %（☆） ○ 緑あふれる未来サポーター制度(公園)の登録団体数：120 団体	➢ 生物多様性保全イベント参加者数（☆） ➢ 市域面積に対する緑地面積の割合 ➢ 市民1人当たりに対する都市公園面積 ➢ 公園などの面積 ➢ 希少種の保全数（ヒメボタル、コバノミツバツツジ、ヤマサギソウ、イヌセンブリ）
	都市環境 快適な都市環境の創造	◎ 今住んでいるところが気に入っている、住み続けようと思っている市民の割合：70 % ◎ まちなみが美しいと感じる市民の割合：70 % ○ 鉄道・バスなど公共交通網の便利さに満足している市民の割合：60 % ○ コミュニティバス1便当たりの乗車人数：↗	➢ バリアフリー重点整備地区内の主要な生活関連経路など整備延長 ➢ 自転車通行空間の整備延長 ➢ まちづくりのルール（地区整備計画）の策定地区数[面積] ➢ 景観に関するルール（景観重点地区）の指定地区数[面積]

※1 目標達成状況を示す指標 ※2 達成指標の実現に向けた具体的な行動の指標

※ ◎ は、代表指標（各分野を代表する達成指標）

※ ☆ は、重点戦略と重複する指標（各戦略の目標が分野横断的なものであるため、分野別目標の指標と重複するものがあります。）

基本方針

安全で健康かつ快適な生活を営むこと
のできる良好な環境を確保する

エネルギーや資源を大切に使い、
循環する社会を目指す

市民、事業者、行政の協働で、持続
可能な社会づくりを進める

望ましい環境像

みどりと水 光と風 楽しく共生し未来へつなげる 環境先進都市すいた

重点戦略

総合的かつ分野横断的視点により、重点的に取り組む目標

人・組織・仕組みをはぐくむことで、効果的に本市の環境をまもり、さらに地球規模の変化にもそなえる

戦略の方向性

目標

施策の柱

戦略Ⅰ

はぐくむ

環境保全・創造の基盤となる
人・組織・仕組みをはぐくむ

- ▶ 持続可能なライフスタイルを実践する人材を“はぐくむ”
- ▶ 環境に配慮したビジネススタイルに取り組む事業者を“はぐくむ”
- ▶ 環境を中心とした多様な主体とのつながりを“はぐくむ”

戦略Ⅱ

まもる

良好な環境をまもる

- ▶ 未来につながる環境を“まもる”
- ▶ 市民にとっての憩いの空間を“まもる”

戦略Ⅲ

そなえる

気候変動による影響にそなえる

- ▶ 気候変動による大規模災害に“そなえる”
- ▶ ヒートアイランド現象に“そなえる”

分野別目標

本市の環境課題の解決に向けた分野ごとの目標

分野・目標

施策の柱

エネルギー

再生可能エネルギーの
活用を中心とした
低炭素社会への転換

- ライフスタイルや事業活動の転換促進
- 省エネルギー機器などの導入促進
- 再生可能エネルギーの導入拡大

資源循環

資源を大切にする
社会システムの形成

- ごみの発生抑制を優先する社会への転換
- 多くの市民が参加しやすいリサイクルシステムの構築
- 排出者責任の確立と事業系ごみの減量促進
- 持続可能な低炭素社会実現に寄与する収集体制や処理システムの構築
- 水資源の有効利用と健全な水循環の推進
- 産業廃棄物の適正処理

分野・目標

施策の柱

生活環境

健康で快適な暮らしを
支える環境の保全

- 環境汚染防止対策の推進
- 環境美化の推進
- ヒートアイランド対策の推進
- 日照障害・電波障害対策

みどり・自然共生

自然の恵みが実感できる
みどり豊かな社会の形成

- 生物多様性の保全
- 自然資源の持続的な利用
- みどりを継承する
- みどりを生み出す
- みどりを活かす
- 市民参画・協働により、みどりのまちづくりを進める

都市環境

快適な都市環境の創造

- 景観まちづくりの推進
- 自動車に過度に依存しない交通環境整備
- 環境に配慮した開発事業の誘導

環境に関する課題解決のキーワード（基本理念）

「MOTTAINAI」（もったいない）

みどりと水 光と風 楽しく共生し未来へつなげる 環境先進都市すいた

エネルギー



再生可能エネルギーの活用を中心
とした低炭素社会への転換

資源循環



資源を大切にする
社会システムの形成

みどり・自然共生



自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成

生活環境



健康で快適な暮らしを
支える環境の保全

都市環境



快適な都市環境の創造



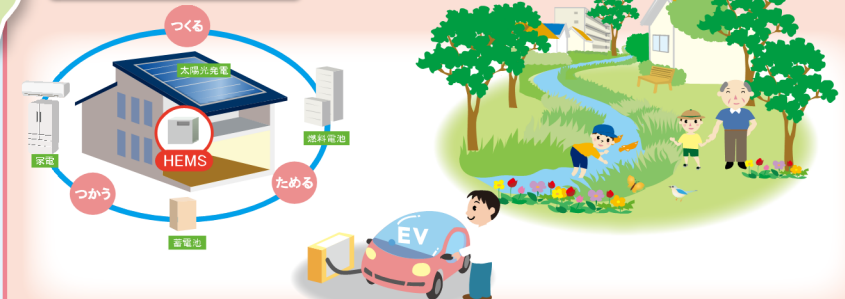
重点戦略

はぐくむ



環境保全・創造の基盤となる
人・組織・仕組みをはぐくむ

まもる



良好な環境をまもる

そなえる



気候変動による影響にそなえる

人・組織・仕組みをはぐくむことで、
効果的に本市の環境をまもり、
さらに地球規模の変化にもそなえる

本市では、環境の保全を図る市民団体の活発な活動が、良好な環境の維持に貢献しています。これらの市民団体をはじめ大学などとの連携を進めています。

環境の保全を図る市民団体一覧※

団体名	内容	主な活動
アジェンダ21すいた	市民・事業者・行政の三者協働で、持続可能な社会の実現を目的として、環境活動を実践	地球温暖化防止「すいたクールアース大作戦」、食品ロスの啓発「すいた食べきり運動啓発キャンペーン」など
特定非営利活動法人吹田・江坂ビジョン21	市内（豊津・江坂地域が中心）の環境美化、交通安全の改善・向上への活動	街道の清掃 不法駐輪撤去のチラシ配布
特定非営利活動法人すいた環境学習協会	環境学習支援活動、みどりの保全活動、環境美化活動、普及啓発活動を中心に社会貢献活動など、幅広い感動創造活動を推進	出前授業、市民環境講座、第2・第7緑地保全活動、環境美化推進員活動、公園の樹木ガイド
吹田自然観察会	毎月、市内で身近な自然の観察会を実施。生物調査、自然保全活動なども実施	自然観察会（どんぐり祭りなど） 紫金山子ども自然教室
特定非営利活動法人すいた市民環境会議	身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境などの保全、回復、創成をめざし、地球温暖化防止の為に私たち一人一人ができることを考え他団体と共に行動する	市内の生物調査・観察会（希少植物・10年毎の大木調査など）、まちあるき、市民共同発電所設置、森のクラフト、エコクッキング
千里竹の会	千里ニュータウンに残る竹林の保全、竹のイベント、竹の細工などを実施	たけのご堀り 本庁舎の門松飾りつけ
公益財団法人千里リサイクルプラザ	地球温暖化の防止などを含む循環型社会の構築・推進に関する事業を行う。啓発・普及事業、情報提供事業、講演・講座・環境学習支援事業などを実施	環境学習発表会、千里エコフェスタなどの開催 市民研究員による調査・研究・実践活動、リユース食器の貸し出し

※ 吹田市市民公益活動団体ガイドブック掲載の環境の保全を図る活動団体（17団体）のうち、アンケートの回答があり、かつコラムの掲載を了承していただいた団体

オオキンケイギク（特定外来生物）の駆除活動を実施



オオキンケイギク

もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系に影響を及ぼすものについて、**特定外来生物**として政府が指定しています。

特定外来生物の一つであるオオキンケイギクは、市内に多く生育していたため、その拡散を少しでも抑えようと、特定外来植物から吹田の自然を守る会の活動に賛同し、令和元年（2019年）6月、同会と市民・事業者・行政の三者協働組織であるアジェンダ21すいた、特定非営利活動法人すいた環境学習協会、特定非営利活動法人すいた市民環境会議、特定非営利活動法人吹田みどりの会、吹田自然観察会が共催で駆除活動を行いました。

活動の様子



学生との連携

「すいた環境学生ネットワーク（SENS）」※とともに、市民団体と協働して、環境啓発活動を行っています。

平成31年（2019年）3月には、SENSが中心となって、アジェンダ21すいたとともに、子供達が自然に触れ、より身の回りの環境に興味を持つことを目的に、ビンゴ形式で楽しく植物を知ることができる「はらっぱビンゴ」を開催しました。

※市内の大学・研究機関又は市内で環境活動に取り組む大学・研究機関の学生及び学生団体で構成され、現在、関西大学良永ゼミや大阪大学環境サークルGEC Sを中心に活動